

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902009		
法人名	有限会社和の里		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	旭川市神楽岡12条3丁目1番16号 (電話) 0166-66-4888		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】 (平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	17 人	常勤12人, 非常勤 5人,	常勤換算12.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	16,000～24,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	15 名	男性 2 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑が丘クリニック 村上内科医院 旭川南病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、郊外の住宅街に立地し、広い敷地にはテラスや花壇・畑があり、建物の中からは、広い木立ちの庭が眺められるなど、緑豊かな環境に恵まれた事業所である。建物は、随所に木のぬくもりが感じられ、広い窓や共有空間があり、また、エレベータが設置され、バリアフリーも行き届いた暮らしやすい造りになっている。自分のことは自分でできるように、との理念の下、利用者は、それぞれ役割を持ち、生きがいを持って暮らせるように配慮している。毎回の食事も利用者により好評で、職員は、利用者と一緒に食べる意義を理解し、一緒に準備するなど同じテーブルで食事を摂っている。開設3年目で、徐々に地域との交流を深めており、これからも一層、地域に浸透していくことが期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善事項については、洗剤・漂白剤の置き場所には配慮し、また、アセスメントシートを工夫して、介護計画に本人家族の希望を反映させるとともに、家族へ利用者の様子を定期的に報告するなど、改善している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に際しては、全職員で評価項目の内容を確認し合い、日々のケアに何が必要か検討を行った。今後は、自己評価・外部評価の意義を職員一人ひとりが十分に理解し、日々のサービスを振り返り、どこがまだ不足であるかを認識する機会とし、スキルアップに役立てていくことを期待する。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、昨年4月より2ヶ月毎に開催し、地域の民生委員や婦人部員も出席することで、災害時における地域の協力や、事業所と地域の交流の機会等を広げるための橋渡しとなっている。また、会議の場を、認知症について、地域の住民に知ってもらおう機会としている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「和の里たより」を家族に送付するとともに、3ヶ月毎に個人記録等を送付し、事業所の様子や利用者の状態を報告している。また、運営推進会議と同じ日に家族会を開催し、会の後半には、家族同士だけで話し合う時間を作るなど、意見を言いやすいように配慮するとともに、意見や要望を運営に反映するよう努めている。</p>
	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内運動会や地区センター祭りに参加したり、クリスマス会には、町内の住民が踊りを披露しに事業所を来訪するなど、徐々に交流を深めている。今年に入り、町内会の住民対象に、認知症の勉強会も開催することができた。災害時の協力関係は、現在、運営推進会議に参加する民生委員や婦人部員が橋渡しとなり、町内の防災委員と調整中である。今後は更に、保育園や幼稚園・学校等との交流も、検討するよう期待する。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分のことは自分で」という、わかりやすい理念を掲げ、全職員で共有している。しかし、地域密着型サービスとしての、理念の見直しを、話し合うまでには至っていない。	○	全職員が、地域密着型サービスとしての事業所の意義を理解し、地域に根ざした事業所を造りあげるために、理念について職員全体で話し合い、再考することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関正面の見やすいところに理念を掲げるとともに、管理者と職員は理念をよく理解し、日々のケアに心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会運動会・地区センター祭りに参加するなど、徐々に交流を深めている。クリスマス会には、町内住民が踊りを披露しに事業所を来訪している。また、町内会住民を対象に、認知症の勉強会を開催している。災害時の協力関係は、民生委員や婦人会員が橋渡しとなり、町内の防災委員と調整中である。	○	今後更に、地域住民が、気楽に事業所に立ち寄れるような催しものを企画したり、地域の保育園や幼稚園・学校との交流を図るよう、検討することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に際しては、各ユニットの職員3人ずつで、各評価項目を読み上げ内容を確認し、取り組んでいる。前回の外部評価での改善点については、可能などころは改善しているが、改善計画を立てて行うまでには至っていない。	○	職員全員が、自己評価や外部評価の意義についての理解を深め、改善シートなどを用いて改善計画を進めていくことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、事業所の運営状況や、町内・地域との関わりについて報告している。また、会議に出席する民生委員・婦人会員が、災害時における地域との協力関係の構築に向けた橋渡しとなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告や相談などで、市の担当者と連絡を取っており、助言も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「和の里たより」を発行し、家族に送付して事業所の様子を知らせている。また、毎月、利用者の日常の様子や報告とともに、金銭管理帳のコピーおよび領収書を送付している。更に、3ヶ月に1度利用者の個人記録等も送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場合では、家族が意見を言いやすいように、後半は職員が席をはずし、家族同士が自由に話す機会を作るとともに、家族からの意見・要望には速やかに対処している。苦情担当者を写真入りで事業所内に掲示し、重要事項説明書にも明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が働きやすいような環境づくりを考え、別棟に大きなログハウス調の休憩室を建て、休憩時間にはゆっくり休めるよう配慮している。また、ユニット間の異動に際しては、一定の期間を設け時間をかけて、利用者のダメージを防ぐようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修は、全員受講している。また、実務者講習は交替で参加している。外部研修の後には、全職員に報告し、情報の共有をしている。また、内部研修も実施し、スキルアップを図っている。	○	救急救命講習は、職員全員の受講が望ましいので、なるべく早く、全員が講習を受けるよう検討することが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回、同業者との間で、それぞれの職員を交換して研修を行っている。情報収集や意見交換を行い、サービスの向上に役立っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人・家族と面談したり、事業所の事前見学をしてもらうなど、不安を解消する配慮をしている。利用開始後は、できるだけ家族に利用者のもとを訪問するよう促し、利用者が不穏にならず落ち着けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が、一緒に食事の準備をしたり、話しながら、食事を摂っている。また、味付けや調理の方法を利用者に教えてもらうなど、利用者それぞれのできること・できないことを見極めながら、一人ひとりが役割をもつよう配慮し、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に家族から情報収集を行い、利用者に合った支援を行っている。これからの課題として、本人との日常の会話から聞き取った思いや意向を、さらにケアプランに反映するよう計画している。	○	現在、センター方式を取り入れたばかりであるが、今後これを活用し、本人の思いや意向をさらに把握していくことを検討しており、さらなる取り組みが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人に2人の担当職員を決め、月2回のカンファレンスを通し、介護計画が適正かどうかを検討している。カンファレンスの前に、本人・家族の意見を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、ケアカンファレンス時に、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化があったり介護度が変わったときや、家族の要望があったときなどは、そのつど見直しをしている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買い物・散歩の付き添い、近くの地域センターでのカラオケ教室への送り迎え、車での遠出など、柔軟に対応している。2ヶ月に1度、訪問理美容の支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関への受診時には、職員が同行し、生活状況の情報を提供している。また、リハビリの受診の送迎も支援している。受診後は、家族に受診内容を報告している。今までのかかりつけ医への受診を希望する利用者には、家族が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期における、本人・家族の希望を記載した書面を、保管している。同意書も作成しているが、今後さらに改良する予定である。	○	重度化した場合の、支援体制の準備や介護方法について、職員で話し合い、研修を重ねていくことが望まれる。また、他の事業者との情報交換や合同研修なども期待される。同意書については、よりよいものに改良することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行っている。個人情報などの書類は、事務所に保管するとともに、外来者名簿を個票にし、プライバシーの確保をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースを尊重し、起床時間や就寝時間は異なっている。また、それぞれの希望に応じて、散歩・買い物・車での外出や送迎の支援を行っている。食事の準備や掃除も、本人の希望やペースに合わせている。	○	一人ひとりの希望に沿って支援しているが、今後はさらに、利用者の思いや望みを日常のケアを通して把握し、ケアプランの見直しの中で、それぞれの要望に近づけていくことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、それぞれの力量に応じて、買い物や食事の準備を手伝い、職員と一緒に食事をしている。介助が必要な利用者には、会話をしながらさりげなくサポートしている。管理者は、食事が利用者の大きな楽しみであることを踏まえ、食事のメニューは、質・量ともに、満足できるものを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や状態に合わせ、日中の好きな時間に入浴できるよう支援を行っている。最低週2回は入浴するよう勧めているが、入りたがらない利用者には、湯加減をみてるように頼むなど誘導しながら、入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりには、それぞれ役割を持っており、食事の準備や買い物、畑仕事など、本人の興味や力量に合わせ、生きがいを持てるように支援している。また、近くのカラオケサークルへの送迎・遠出の外出・地域の行事への参加等の、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・外食・喫茶店・遠出の外出などの、外出支援を行っている。冬場は、どうしても事業所に閉じこもりがちになるが、ショッピングセンター等に行くなど、外出の機会を持つようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の施錠はせず、利用者が外出しそうなときは、職員が声かけをしてついて行くなど、利用者が自由に暮らせるように心掛けている。夜間は防犯上、施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署と協力して行っている。また、災害時の避難場所の確保も行っている。災害時の協力関係は、運営推進会議を通して、地域の民生委員や婦人会員が橋渡しとなり、調整中である。	○	災害時の飲料水等の備蓄などについても、検討することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、職員は把握している。糖尿病の利用者については、食事の摂取量に気をつけるとともに、間食摂取量も把握しており、家族と本人との希望を調整しながら、支援している。	○	定期的に、栄養士による栄養バランスの確認を行うことを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には、テーブルが4つと椅子・ソファを置き、また、廊下にも椅子を置くなど、利用者が、それぞれ自分の好きなところでくつろげるように、配慮している。窓が広く、玄関にテラスがあり、明るく開放的な造りとなっている。玄関や居間の飾り付けも、落ち着いた家庭的なものとなっている。	○	衛生上、トイレの職員用のスリッパを確保し、タオルの共有を避けるなどを、再度検討することを期待する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や写真、飾り物、また、自宅で使っていたソファなどを持ち込んで、家庭的な空間となっている。		

※  は、重点項目。